

図書委員有志による小さな本箱作り



吾孺二中 ニュースレター

墨田区立吾孺第二中学校

令和5年9月1日(金)

校長 駒田 るみ子

□ 小さな本箱作り

夏休みに入った7月24・25日に図書委員による小さな本箱作りがありました。これは区立ひきふね図書館からレクチャーを受け、本校と連携している幼稚園、保育園、小学校へ贈ろうという企画です。墨田区では、学校でも電子書籍が利用できるようになりました。本を手に取り、かつデジタルも活用して本に親しんでほしいです。読書指導においても幼保小中の連携を推進します。

二中地区育成委員会 挨拶運動



9月1日、8時から挨拶運動にて御協力いただきました。ありがとうございました。

起承転結…読解力向上

学校だよりのメインの文章を書く時に留意していることの一つに構成があります。学校だよりの文章はほぼ起承転結です。これには意図があり、生徒の皆さんが作文を書くときの参考、物事を考える型の定着、読み取りやすくするための段落の役割の意識、というねらいがあります。

9月は外部の方の話聞く機会もあります。起承転結だけでなく、構成を意識して聞くスキルも身に付けられるとよいですね。

挫折から学ぶ

校長 駒田 るみ子

夏の終わりにふと頭に浮かんだ句があります。

「蛻(ぬけがら)に いかにか 響くか 蟬の声」

平野啓一郎著の小説「ある男」の最終章で、中学3年生の息子が桜の木の蟬の蛻を題材に詠んだ句です。小説の主題はさておき、私は「抜け殻」を休み前の過去の自分と考えると、40日間過ごした後に、休み前の自分を振り返って、自分に向かって声を放つとしたら、それはどんな声だろう、どんな言葉だろうと考えてみました。

休み前にはいろいろと計画を立て、休み後はどんな自分になっているだろうと、楽しみだったのではないのでしょうか。しかし大人でさえ、40日もの長い期間の生活を、適切にコントロールするのは難しいものです。おそらくしっかりやり切ったと満足感をもって、休み前の自分を振り返る人がいたとしても、そういう人はさらなる自分の理想の姿を思い描いて目標を高くするので、やはり反省はつきものです。一方、多くの人は思い通りにならなかった部分に目がいき、残暑も重なり、少し憂鬱で、倦怠感も感じつつ、夏の終わりを迎えるのが常かもしれません。

さて、夏休みに入ってからすぐ、本校卒業生がお世話になっている私立高校の先生が来校された際に、こんなことをおっしゃっていました。「生徒たちには、挫折を経験し、挫折から学んでほしい。」全く同感ですが、学校生活の中でわざわざ挫折を用意して経験させるというわけにもいきません。その方と「勉強でもスポーツでも中途半端な取組では、挫折は味わえない。一生懸命努力し、高みを目指した者だけに、ご褒美のように必ず壁にぶつかる時がくるものだ」と意気投合しました。例えばこの夏、女子サッカー、水泳、高校野球、大リーグ、ラグビー、陸上、そして直近のバスケットボールなど、多くのスポーツの話題がありましたが、彼らのプレーの陰には多くの挫折が見え隠れし、そこから這い上がり強くなっているんだと、強く感じさせてくれました。

中学生の皆さんに、「挫折しなさい。」と言うことはできませんが、「何かに一生懸命打ち込みなさい。」と励ますことはできます。夏休み前の自分を振り返り、決別し、そして殻を脱いで成長した新しい自分に、しっかりと心に響くようにエールを送ってほしいです。残暑の中、まだまだ蟬の声も聞こえます。保護者の皆様、地域の皆様、秋学期は文化祭をはじめとして一段と二中学生が輝くときです。どうぞ励ましの声をお願いします。

《 9月1日防災の日 》本校では地域の方の御協力をいただき、下校訓練を行いました。関東大震災から100年という節目の年、防災の観点と同時に、「流言が広がり、多くの朝鮮人、中国人や社会主義者などが殺されました（歴史の教科書から）」ということにも目を向けたいと思います。人権校として、改めて二度と悲惨なことが繰り返されないよう伝えていきたいと考えています。



夏季休業中の活動



～ 夏季水泳教室・連合陸上競技大会練習 ～



～ 夏季補充教室 ～

